



薄暮時と夜間の自転車は歩道をどのように通行しているか?



Q1

歩道を走行時、車道寄りを走行していた自転車は何%だったでしょうか?

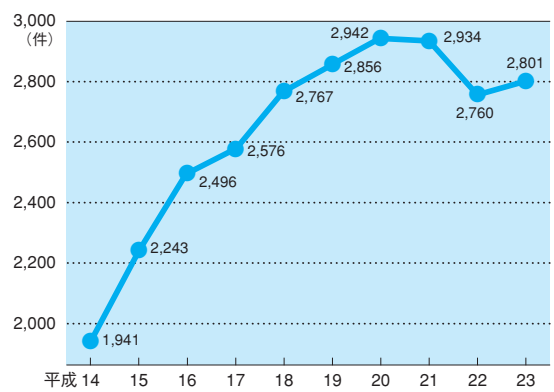
Why

自転車と歩行者の死傷事故件数は過去10年で1.4倍に!

平成23年に発生した自転車がかかわる死傷事故は14万4018件。このうち自転車の対四輪者、対二輪車、自転車相互、自転車単独といった各項目は軒並み減少傾向にある。しかし、対歩行者の死傷事故件数だけ増加傾向にあり、平成23年は2801件、10年前と比較して約1.4倍に増加している。自転車通行が可能な歩道では、自転車は歩道に通行指定部分がない場合、車道寄りを徐行して進まなければならない。そこで今回は、歩行者の存在が見えにくい薄暮時から日没後、歩道を走る自転車を観察した。



●自転車がかかわる死傷事故件数の推移(自転車対歩行者)



観察場所は東京都豊島区、JR池袋駅の近くにある「六ツ又交差点」周辺で実施した。片側2車線道路には、それぞれ道幅3mの歩道が整備され、自転車通行の標識が設置されていたが、自転車と歩行者の通行部分の指定はなかった。夕方の時間帯は駅から自宅に向かうために

出典:公益財団法人交通事故総合分析センター資料

A1 実際の観察から

★Q1の回答
866台中373台(43.1%)



スマートフォンを操作している歩行者

歩道を走行した自転車は866台。そのうち車道寄りを走行していた自転車は373台となった。この道を走る自転車利用者全体に「歩道の左側を通行する」意識があるためか、自転車利用者が車道寄りを走行するのは、上りは郊外へ向かう自転車だけ、下りは駅へ向かう自転車のみだった。日没後は自転車の走行速度が全体的に速くなった。

また、並進して走行していた自転車は15組、イヤホン使用17台、二人乗り6台、携帯電話使用13台だった。全体の割合から考えると比較的少ない結果となった。



携帯電話を操作しながら自転車を運転する利用者もいた

Advice

自転車利用者は「歩道は歩行者優先」の再認識を!

観察は日没(17時6分)の前後1時間で実施した。池袋駅から続く明治通り沿いの歩道は、六ツ又交差点を越えると見通しのよい直線路になる。ゆるやかな登り坂になっており、自転車は交差点を通過したあとにスピードを上げ、勢いをつけて坂道を登っていた。歩道を走行する自転車のほとんどは、歩道の左側を通行していた。「普通自転車通行指定部分がない場合は、歩道の中央から車道寄りの部分を徐行して進行しなければならぬ」という道路交差点法第6条は守られておらず、通行位置を意識しているようには見えなかった。むしろ、郊外に向かう自転車、駅に向かう自転車

自転車を使う人が多かったが、そのほとんどの自転車は歩道を走行していた。車道を走行する自転車の数は全体的に非常に少なかった。

●自転車の通行位置

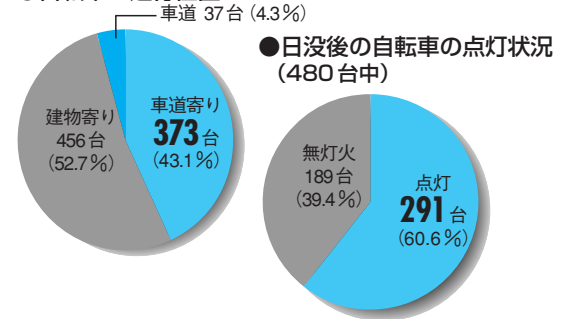
	車道寄り	建物寄り	車道	合計
幼児	8	12	0	20
中学生	43	38	1	82
成人	308	385	36	729
高齢者	14	21	0	35
小計	373	456	37	866

●自転車の点灯状況(日没前/日没後)

	車道寄り		建物寄り		車道		合計	
	日没前	日没後	日没前	日没後	日没前	日没後	日没前	日没後
幼児	0	2	0	4	0	0	0	6
中学生	5	11	0	11	1	0	6	22
成人	11	102	15	138	0	17	26	257
高齢者	2	4	0	2	0	0	2	6
小計	18	119	15	155	1	17	34	291

※子ども(小学生以下)、中学生、成人(19~64歳)、高齢者(65歳以上)の判断は観察者の見解による

●自転車の通行位置(866台中)



Q2

日没前(薄暮時)と日没後、ライトを点灯していた自転車は何%だったでしょうか?



携帯電話で通話しながら無灯火で走行する自転車

A2

実際の観察から

★Q2の回答
日没前(薄暮時)は386台中34台(8.8%)、日没後は480台中291台(60.6%)



夜間に並進する自転車

薄暮時にライトを点灯している自転車のほとんどは、自動点灯式ライトを搭載している自転車だった。日没後にライトを点灯している自転車は6割にとどまっており、依然として夜間に無灯火で走行している自転車が多いことがわかる。また、観察時に車道を走行している自転車は小型ライトを使用している場合が多く、点灯していても遠くから認識しづらい場合が多かった。

はヘッドホンで音楽を聞いたり、スマートフォンを操作しながら歩行していたため、背後から自転車に近づいてくることにほとんど気づいていなかった。自転車のライト点灯状況についてもあわせて観察した。日没30分ほど前からライトを点灯している自転車は34台。日没後の観察ではライトを点灯していた自転車は全体の6割にとどまった。観察中に自転車と歩行者が接触するなどの場面には遭遇しなかったが、自転車の並進やイヤホン使用、二人乗りといった違反行為が確認された。危険な運転は重大な事故につながるかねない。歩道上を走行する自転車利用者は「歩道は歩行者が優先」であることをあらためて意識して、自転車を運転する必要がある。また、薄暮時や夜間のライト点灯は前方を見やすくするためだけでなく、自転車の存在を周囲に示すものでもある。観察者からも無灯火の自転車は直前にならないと認識が難しかった。特に夜間はライトの点灯に加え、できるだけ明るい服装で自転車を運転し、周囲から存在を認識されるよう心がけ、事故防止につなげてほしい。